

あすなる

NO. 10 44.12.18

発行所 釧路アスナロクラブ編集部

目次	
あすなるに寄せる	1
前進することも良い過去の実績を記録することも大切である	1
江戸と浪華	2
迷惑な話	2
馬迷と車	3
雪解隆	4
青事務局	4
編集後記	4

「あすなる」

に寄せる

山本武雄

！ヒノキ

木材の知識はなんにもないのだがヒノキといえば、木材の世の中では多分貴族に属するのだから。階級制の強い神社で見ると、社格が上になる程、ヒノキを使う率が高いのだし町人の家だつて、金持でなければヒノキは使えない。

十年も前のことだが、料亭ハツ浪の風呂に浸つて、釧路市中を一望に見おろしたことがある。そんなことはどうでもよいが、流湯も湯ぢねもま新しい檜材一式で造られていた触覚、細かいキメ、なににもまして、なごやかな香り、こゝには貴族の高慢さがなく、おほらかな愛情さえうけられた。

2、深田久彌

津軽産の作家というと、すぐ浮ぶのが、秋田雨雀や大窪治だ。同じように深田久彌も出てくる。彼は石川具生れなのに、「津軽の野づら」を書きまくつて、百篇以上の短編をもつて動している。

その中に「あすなる」の傑作があるわけだ。もともと、私が秋田生れて秋田、南鄙、津軽といえおしなべて郷土感をもつのだが、そんなこともあつてか、彼の作品からうける反応が大きい。単紙な郷愁とか、十くさいヒューマニティーとか。

3、あすなる

「あすなる」は、所詮あすなる、でヒノキではない。だが彼は、「明日はヒノキになる」というのだ。ヒノキという理想と希望のある「明日」に立ち向つてゐる。だが、明日のすぐ手前にある「今日」は、暦日勘定の一日は二十四時間ではない。

4、ヒノキ

「あすなるからヒノキえ、うつる明日」はきつと来る。その「あすのヒノキ」は、神社で貴族ぶつたり料亭の風呂にすましこんだり、そんな尊大な情ではなく、雑木の中で、みんなに愛される、大衆のヒノキになつてもらいたい。「あすなる」よ新しく明日来ることを信じて、決して動しないでくれ。

「前進することも良いが過去の実績を記録することも大切である」

渡部 政雄

企業を経営していると非常に多忙である。特に中小企業の経営者はその多忙はやゝもすると、後ろを振り返る必要はない、前進するのみだ」と考え易いものであり、また現実的にはその様な考え方を標榜して居る経営者も無いではない、しかしそれは余りにも利便的過ぎて味気ない様な気がする。企業とは其の様な利便的なものであつて良い物だろうか、然し一面では五十年、百年、と歴史をもつて居る店や会社か其の店の歩んで来た道を振り返り此れからの店の歩み方、或は会社の進み方の方向づけをすると言ふ事を現状を適確に冷静に洞察把握すると言ふ事と併せて考へ居る処も極めて多い。社史とか商店の歩みとか経営者(創業者)の自伝とか言ふものがよく編まれ、よく書かれて居る現状が其れを物語つて居るではないか、もつとも其の事業を経営して居る経営者が「何に於ける事業はおれ一代で良いのだ、おれの代で一族郎党が飯を食つて行けたら其れで良い」と考へて居るのなら別である、だが事業と言ふものは其の様な安逸なものではないのではないか、やはり世の中に何らかの形で役立つ事か使命であるとするれば其の事業の日々刻々つゝある足跡を記録に留めて置、それは大切な事だと思ふ。只あくせくと其の時だけの私腹を太らせる事が事業ではない。自分達夫婦してつくつた息子であつても、愛の結晶として親の手許で珠をあたゝめる様に育つてと言ふ事も精々高校に在学中ぐらいのものである。大学を出て就職すれば、もう子供は親のものではなくなり、すつかり社会のものになつてしまふのである概して事業などと言ふものも其の要素は強い、社会のために在る事業、社会のために役立つ事業であればある程、其の記録は後代のものか振り返つた時に其の意義が誤り無く確かめられる様に正しく刻み残して置き度いものである。

此の様な事を特に此処に取上げたかと言ふと、ある会社が其の事業や会社の過去の実績を過去の記録を有いりみる事によつて再確認し又此れを後代に保存して置く事の大切さ改めて私達に教へて居ると思つたからである。つまり記録する事の大切さをもう一度認識しなおし度い、と言ふめどりの頼母しさを其処に見たからである。

完

馬と車

国 方 陸 夫

栄光を呼び込まずとす一九六六年の午歳果して其の様な年になり得るか？今年一年の我々の努力が総てを

待する事は企業を運営するに誠に危険といわれねばなるまい。矢張り日本経済界にひたひたと押寄せ居る不況の波がやつてこない本年上半期に

僅か十八万都市の創路にも百万都市或は式百万参百万都市なみに各デーラーがひしめき合い、日夜しのぎを

今年も当社のモットーである「セールスマンは誠実を売る」という自負で大いに頑張らば抜き車輦業界に於ける質量ともトップデーラーの位置を

確立せんと企願致して居りますのであすなるの皆さんどうぞ御支撥の程願上ます。標題より大分かけ離れて

そんな馬にも小生に忘れられない馬の記憶が午年ならずとも時折なつかしく思い起す事がある……………

昭和三拾年八月十五日樺太は豊原市でKはソ聯軍監視下の師団司令部参謀部より同僚七名と共に捕虜になる

当時の雨龍の部落は密航によつて地元へ着いた。

の人は殆んど居なく、空屋と取残された野良犬と銅ねこがニヤゴニヤゴと鳴いて居るわびしい姿であつた。其処で此の先三里程花咲へ

K一行も先住者の慣例に従い間もなくそんな生活にとけ込んで行つた。或る日食糧確保のため馬車を一台立

見又先方の乗組員もK一行の近づくのを待つかの様であつた。

しく危惧して居た監視兵……………

おかげでK一行まで密航の現行犯と判断された馬車共々連行される運命と相成つた都合六里の道を前日に監視

やがて最後の時にかゝりこれを越せば目的地へ着くという頂上にさしかつた処いきなり発砲されたからび

からたまらない、馬から落ちてあわてたため毎やぶの中にはい廻るもの、馬の手綱を必死につかんで馬と

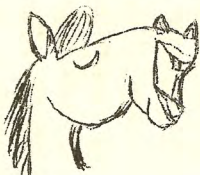
くもので今度は翌日夜陰をさけて堂

★と日中昨夜の馬五頭と又ソ聯監視所から逃亡した時は追われるんじやないかという不安もあつたが、首尾よく成功其の悪運がついて廻りK

て居り昨年末は全国コロナ販売コンテストでDクラス優勝を上げ午年の一月二十一日に東京で表彰をうけ

昨一年間の成績で全国一八五店のデーラーより選出されて販売店表彰も受けるKの勤めて居る会社は今年も頑張つて連続表彰をねらつて居ります。あすなるの皆さんどうかよろしく御願ひ申上ます。

終



江戸と浪華

今田英三

新幹線が走り出してから東京と大坂の距離は益々短縮された。東海道五十三次の頃頃場宿場を泊りながら旅から旅に歩いた昔と早さだけの味けない三時間十分の旅とでは比較にならない。日本の国の狭さを感じるが一度私達の商いの世界にはまだまだ江戸と浪華の多い。今テレビに山崎豊子の大坂の昆布商の上性骨を書いたドラマが映されてくるが東京商法と大坂商法は日帰りコースになつた東京大坂でも大差のある性格を作りなしているのには驚かされる。では私達の様な北端の田舎町の商人はどちらの商法を学ぶべきかというところとも一口に言切る事は出来ない。都市中心の東京と北海道商人は親類であり氣質、動作、ルールについては東京的といえ機、だが一方に大坂的なタイプも同時に識り込まれている様に感じ、いや大坂商人の様に心掛けているのかも知れない。大坂と東京とは商売上の環境の違いからくる両面の氣質があつて面白い。私の店も主力商品をこの主要二大都市から仕入る事が多く、メーカ問屋と東京、大坂、から毎日五、六人の出張員の方々と話合う事が日科です。ですので(3)両者の違いを土壌の上にあげ分析し、

その言語掛り、方針、態度等いずれに軍パイをあげるかたまたま研究しているのです。私は豊臣秀吉は歴史の上の偉人の中で一番好きな人物であり歴史的背景を持つ大坂に郷愁を感じます。大坂かその大関さんの時代から徳川幕府に政権を取られ江戸に中心をうつばれ又太政奉還で京都の天皇さん迄東京に行つてしまひ、幕府は三百年首都になつた東京から百年、四百年間を主要中心都市から遠ざけられ一介の地方都市として生存した歴史的な背景の中にあつてそれをさへえた物は商事であつた事は今目新しく書く程の事ではない。それから見ても根強い雑草の様な枯れても又新芽を出すと言う土性骨の商人が生れたのかも知れない。一方東京は何んとかなく官僚的な臭いは永い間の政治都市の中心地だつたからその点は、否めない大坂商人は言葉で又徳を起している。大坂言葉程商人のために出来た言葉はないと思う。私はいし浪華言葉が東京にあつたら今日の大坂は出来ていなかったと言えらるだろうと極言出来る。大坂人は、その言葉の武器を又上手に作つて、その事その一つだ。官僚的な背景の東京商人の作つたのは、日本中心な標準語だつたのである。東京中心の何事も中央と考える組織作りの商法はやはり東京でなければ発展出来ない。メーカ商社、問屋小売店し

て消費者一環された組織作りの商法はこれからの商法である事はたしかだ。その中のいづれかの分野をたづさわつてはいる私達も東京的な組織の中で又組織を作りつゝあるのかも知れない。大坂の個人プレーも又大切である。大松や大坂商人の典型と言わねばならぬ大社長でも会社の機危には一営業部長に自ら落ちて陣頭の指揮を取ると言う大坂商人のしんの根強さこそ現代の経営者は学ばなければならぬ。商人にも偉大な経営者もあれば、田舎の小規模の経営者もあれども責任と任務は同じです。江戸と浪華の時代から四百年の間幾千幾万の商人がこの重要な消費の供給のためにげんぐで来た事と想うと

何んとかなく私達の現代の創設の発展のためにまだまだ努力がたりない。江戸と浪華の商人氣質を分析して現代にあてはめて見ようと思ひ初めたのがいつのまにか感情的な文になつてしまつたのは、まだまだそれを比較する程自身が未熟だからと一人さとして失礼する

四月四日

迷惑な話

稲垣友則

突然見も知らぬ方より結婚祝の案内状を入手しました。どう考えても知らぬ方ばかり、勿論新郎新婦もそして又発起人の方々も、あるいは家内の知人かと思つてきいて見ると「私も知らない」という。

あまりにも不思議なので友人の二人にあつて聞いてみると「いや実は僕達にもきているのが一面職もない人達ばかりだ」と異口同音に謂う。

どの様な筋から私のところまできたのかと考えあぐんだ末、ふと思ひ出してもう一度文面を見て新婦の父親の名にひつつかつた。

同性かも知れぬが日頃出入りしている方の親類筋にこの様な名の方がおり一、二度お会いしたことがある様に思われ、早速先づそのA氏宅にお伺いしてそれとなく聞いて見ると、想像通りA氏の妹さんが嫁いでいる旦那の伯父さんの長女だという。

それで納得したもので私の友人達ほどの様な関係であるかと考えて見た。彼等はA氏は知らない筈だし勿論その伯父さんなる方も知つておるまい。よくよく聞いて見ると私を中心にして日頃世間話の時私の口から出た友人の名を記憶していて案内状を出したという。それがA氏の指図かどうかしらぬがよく調査したも

わだと感心しました。底を割れば最近とくに多くなつた新生活運動による祝賀会方式謂合費制というやつ、ある一定の人数を掌握するために近辺の知人友人だけでは不足なので誰彼の差別なく案内状を出し、ともあれ満杯にして船出をさせようという魂胆、いさゝかあきれもしましたがこれは極端な例かも知れません。

しかしその底にある何かが心にひつかつて釈然としなないものがあることがまゝあります。端的に言えは迷惑な話で喜んで出席して下さつて心からお祝ひしてくれてはじめて新しい生活に入られる新郎新婦も有難いというもの。それが義理やむしろ進まぬ心に鞭うつて出席されてもはたしてお二人が満足出来るものでしようか。難壇にかざられたお二人はお人形、あたりの数名がこれをチャンスと許り呑んだりうたつたり、まるで茶番劇ですね。

これはこの様な合費制の祝賀会許りでなく、

この世の中にはこれと似た事が多くさんあると思ひます。

少なくとも私達も時折この様な渦の中に巻き込まれたり又知らず知らずの中にこの様な渦をつくつてはいるかもしれせん。

心してくらさなければ

一月

雪解の頃

手林 俊夫

毎年三月になるとなんとなく春めいて来て、すくなくても春だと云う気持ちになつて、なんとなくうきうきして来るのであるが、お彼岸近くになると決つて春意がやつて来て、陰つた冬えの逆戻りを感じさせるのである。昨年(二〇日)に社員の結婚式があつて、朝のうちは春らしく、しかも大安の日とあつて、長閑かな気分、祝辞を頭の中で、考へて居たものであるが、午後から降り出した雪は夕刻になると吹雪となり、列車不通の個も発生して、地方よりの出陣予定者が来られなくなり発起人一同頭を悩まし、新婚旅行を見送

青隆界グループ

りに行つた駅頭では、寒さにふるえ、盛装の女子社員には真に気の毒な、春の雪のいたずらであつた。案の定今年も三月十九日にとつと雪が降り之通りの雪景色となつて、永い冬とお別れして、雪解の頃を迎えて張切つて居た矢先だけに、例年のこととは云いながら、真に恨めしい次第である。然しながら去る十四日の例会で丸文橋本の大宮さんから、「大松根性論」と「大宮さんの社員教育論」を拝聴して非常に感銘を受け、雪解の街を歩き、身体中に燃え上がる物を感じながら、早く雪が解けて、春が本当にやつて来たら大いに根性を発揮し、あすなる精神を充分に活用し、「仕事に」「家庭に」大いにハッスルしようと思つた。大いに家路へ急いだのである。

おわり

去る三月十一日前会員佐々木政勝氏の紹介で札幌「青隆界グループ」幹部氏と会合の機会があつた事は既に三月例会で御報告の通りですが例会に欠席の会員もあり亦今何等かの形で接觸がある事も予想されますので改めて概要だけをお知らせ致します。

の向上を期し各業種志を同じうして集い、釧路市内で営業に携わる一業種一名を原則とする。云う迄もなく本会の姿勢であるが青隆界グループの規約第三条に本会は中小企業の運営にたすむる少壮実業家が一業種一名をもつて円決して中小企業の発展の将来を獲得するために資金の蓄積を計り事業グループを設立することを目的としあわせて、

事務局メモ

(十二月以降)

三月十八日 最上 勇

札幌市の発展並びに北海道の開発に貢献し社会福祉に協力する更に第七系普通会員とは昭和五年以降に出生せる者で現に事業を経営している者またはこれに準ずる者。以上が目的と会員構成で設立は昭和三十七年十月と云う事ですから年令三十二才以下の青年が中心となつて結成した訳で現在の最年長者でも三十六才以下となります。一応目標を四十五年に置き且下資金の蓄積中だそう目標準成年度には相当大きな事業を打ち出すと幹部の方々共に希望を述べて居りました。他市にも本会の兄弟があつた事は喜ばしい事、今後機会あることに会員の交流を深め出来れば全道的に呼び掛ける運動を展開してやろうと話し合つた次第で交流のパイプは佐々木政勝氏がグループ会員でもありますので今後の課題として吾々も協力すべきであると思つた。

△例会

十二月十八日 於労働会館

第三回家族九十七名の参加を迎え映画「のど自慢」お店訪問等の楽しいプロを展覧して年末の一時を過しました尚記念カメラアルバム

を山下会員の協力で作成致しました。一月十七日 於 泉屋 出席 十五名

テーマ新春放談

二月十三日 於 東家総本家 出席 二十一名

ゲスト元市長 山本武雄氏

例会前 新酒仕込を備司本舗敷島商會で見学 総本家に於てビール銘柄当り キ、酒競技を行い珍答迷答に抱腹大笑、入賞者に記念品贈呈後テーマ「市政回顧と米市民生活」の講演を拜聴する

三月十四日 於 泉屋 出席 二十三名

テーマ 大松根性と社員教育

大会会員を講師に活潑な討論を行い、特に巫丸文で行い、ある入社前教育の特徴に会員一同の大いに認識を深めた

△部会

広報 十二月四日 打合会

十二月十日 編集会議

三月五日 編集会議

広生 十二月四日 プロ作成会

十二月十五日打合会

十二月十七日全体打合会

総務 一月七日 全教打合会

三月五日 役員会

四月五日 役員会

△会員同向

入会 清水武敏氏 マルセイ清水

編集後記

堂代表取締役 研究部所属 稲垣友則氏 (〇)橋本商店専務取締役 厚生部所属 一月五日付 一筆 一鈴

まわりも学園の早期昇進と西港問題の進展は共に明る見通しの朝報第十号の編集が吾々部員の最優秀先輩の御苦労をしみじみとかみしめ次期新鋭者にバトンたつちを楽しみに後記

新年度に期待する

あすなろら誕生以来四年目を迎へ益々社会的評価も高まり来る総会に於て新役員が選ばれ、今後の方針に新味を盛る事になつて居るが、北斗こう外にての野外修業も間もなく行われること、例行事で、新厚生部長の腕の見せ場とならう。

又企画部は二本化したので、今年はずつと、一部 二部のゆり合いもなく活発化するであらう事が期待されて居る。

尚正別会長及び理事は、部会構成も総務、企画、厚生部の三部門に編成、総務部長に池ヶ谷、企画部長に大宮、厚生部長に沖の各氏が本年度の本会の舞台を支える事となつた。